

喜多川周之 略年譜

喜多川周之 略年譜

年		歳	事 項
1911年	明治44年	0歳	6月9日、父周蔵、母はんの長男として東京市小石川区林町40番地に生まれる。 1908年（明治41）年生まれの姉周子がいる。
1914年	大正3年	3歳	弟周人が生まれる。
1917年	大正6年	6歳	弟周正が生まれる。
—	—	—	神田で育つ。
—	—	—	神田猿樂町の錦華小学校に入学する。
1923年	大正12年	12歳	小学校六年生のころ、始めて凌雲閣に登る。 関東大震災を神田区猿樂町2丁目6で被災する。 祖母、父母、姉、三年生の弟、未就学の末の弟がこの時の家族。 父は、神田駅近くの鎌倉町の出版社に勤めていた。震災の夜は、東京駅前の広場で明かす。 母親はんが、大震災の翌月、10月12日に亡くなる。
—	—	—	震災後、千住に移る。
—	—	—	凌雲閣の絵葉書を買いはじめる。
1925年	大正14年	14歳	浅草寺機関誌「聖潮」で網野宥俊の名をはじめて知る。
—	—	—	高等小学校卒業後、岩倉鉄道学校入学か。
1927年	昭和2年	16歳	石版画工の道に入る。浅草橋にあった川村画版所に住み込みで働く。
—	—	—	川村画版所が、小泉町（現墨田区両国3丁目）に移転する。
1929年	昭和4年	18歳	凌雲閣の調査を始める。
1932年	昭和7年	21歳	文芸誌「新進芸術」の刊行にかかわる。 詩集『母へのおくりもの』（新進作家聯盟／刊行）を発行か。
1934年	昭和9年	23歳	この時点で、東京市本所区東両国3-1（川村方）に住んでいる。 本格的に、凌雲閣の資料収集に乗り出す。
1935年	昭和10年	24歳	千代田区淡路町で画版業を営む。
1936年	昭和11年	25歳	石倉アサと結婚する。
1937年	昭和12年	26歳	「大東京風俗資料研究会」を主宰する。 長女静江が生まれる。
1940年	昭和15年	29歳	次女和子が生まれる。
1942年	昭和17年	31歳	長男周史が生まれる。 父親周蔵が、7月24日に亡くなる。
1944年	昭和19年	33歳	次男周行が生まれる。
戦争中	戦争中	—	この時点で、東京都江戸川区小岩町3-1931に住んでいる。
1945年	昭和20年	34歳	空襲で、凌雲閣の図や凌雲閣の煉瓦、参考資料など、それまでに収集した資料が焼失する。
1946年	昭和21年	35歳	千代田区神田小川町1-3フジプレスに移る。
1952年	昭和27年	41歳	妻アサが、7月18日に亡くなる。
敗戦後	敗戦後	—	再度、十二階に取り組むことにする。 浅草寺の網野宥俊氏に、浅草寺仲見世の稲葉徳三郎氏の紹介で会う。
1963年	昭和38年	52歳	「一葉記念館六十七回忌展覧会」（一葉記念館・11月23日～26日）に資料出品。 「よもやま会」を飯田瘦人らと創立し、浅草に関する様々な講演会を開催する。

1964年	昭和39年	53歳	小森隆吉氏を通じて鈴木理生氏を知る。 日活映画「浅草の灯・踊子物語」(浜本浩／原作 斎藤武市／監督)の凌雲閣のセットの指導を行なう。(日活調布撮影所)
1965年	昭和40年	54歳	開館当初の明治村に関心を持つ。
1968年	昭和43年	57歳	「東京百年記念・浅草秋の観光祭 浅草十二階展」(浅草観光連盟／主催・浅草寺幼稚園・10月17日～23日)に資料出品。
1969年	昭和44年	58歳	「関東大震災資料展」(よもやま会／主催 有楽町そごう(1階アートステップ)・8月21日(木)～9月9日(火))に資料出品。
1972年	昭和47年	61歳	千代田区文化財調査員に就任する。
1973年	昭和48年	62歳	「東京のこころ 浅草今昔展」(浅草松屋デパート・2月9日～21日)に資料出品。 改称により千代田区郷土資料調査員となる。(1978年(昭和53)離任) 「浅草寺五重塔完成記念特別企画浅草今昔祭」(浅草観光連盟・台東区教育委員会／主催・池袋東武百貨店八階大催事場・11月15日(木)～20日(火))に資料出品。
1974年	昭和49年	63歳	3月15日、牧野玩太郎らと共に「千代田郷土の会」を発足させる。
1975年	昭和50年	64歳	台東区郷土資料調査員に就任する。(1983年(昭和58)離任) 「1975年台東区郷土資料展うえの・あさくさ文明開化展」(台東区教育委員会／主催・台東区役所9階・11月5日(水)～11月9日(日))に資料出品 この年、以下のような講演会等を行う。 9月5日 新宿中央図書館で、「江戸と東京の絵図と地図」という講演を行なう。 9月11日 東京都職員研究所で「都市と道路」という講演を行なう。 10月9日 芳林小学校で「神田川のながれ」という講演を行なう。 11月1日 台東区石浜図書館で「絵画にえがかれた浅草北部」という講演を行なう。 11月8日 台東区役所で「浅草の十二階」という講演を行なう。 11月19日 練馬公民館で「下町のまつりと人情」という講演会を行なう。
1976年	昭和51年	65歳	この時点で、千代田区猿楽町1-6-9-501に住んでいる。 この時点で、浅草観光連盟文化部編集員になっている。 台東区文化財専門委員会委員に就任する。 「浅草橋場再見展」(台東区役所・11月8日～13日)に資料出品。 この年、以下のような講演会等を行う。 3月14日 青梅図書館で「神田祭今昔」という講演を行なう。 4月 第一第二土曜日に千代田史蹟めぐりの説明を行なう。 5月12日 不二サッシ工業で「東京の高建築のはじまり」という講演を行なう。 6月26日 京橋図書館で「東京を語る会・江戸と東京の地図」という講演を行なう。 8月4日 民主婦人連盟主催の「皇居東御苑散歩」の講師を行なう。 9月10日 一ツ橋中学校で「一ツ橋周辺・昔と今」という講演を行なう。 9月23日 石浜図書館で「橋場町の移りかわり」という講演を行なう。 10月6日 西城ロータリークラブで「紀尾井町そのあたり」という講演を行なう。

1977年	昭和52年	66歳	<p>10月7日 芳町見番で村松博雄との対談「人形町かいわい」を行なう。</p> <p>10月18日 日本橋東ロータリークラブで「日本橋川の流れ」という講演を行なう。</p> <p>11月4日～9日 千代田区老人福祉センター寿学級で「神田昔ばなし」という講演を行なう。</p> <p>11月13日 台東区役所で「浅草橋場再見」という講演を行なう。</p> <p>12月2日 日本工業クラブ座談会で「東京の赤煉瓦」という講演を行なう。</p> <p>毎月第一火曜日に千代田区婦人学級郷土史講座を行なう。</p> <p>この時点で、浅草観光連盟の参与になっている。</p> <p>「下町浅草展」(札幌東急百貨店・2月2日～7日)に資料出品。</p> <p>3月12日 杉並郷土史会で「神田上水と大江戸の話」という講演を行う。</p> <p>「1977年台東区郷土資料展浅草六区展」(台東区教育委員会／主催・浅草公会堂1階・11月4日(金)～11月8日(火))に資料出品。</p>
1978年	昭和53年	67歳	<p>NHK朝の連続テレビ小説「おていちゃん」の時代考証を行なう。</p> <p>「サーカス資料展」(浅草区民会館1階展示ホール・?～3月31日)に資料出品。</p> <p>「東京のこころ 浅草今昔展」(浅草松屋デパート・10月13日～25日)に資料出品。</p>
1979年	昭和54年	68歳	<p>NHK朝の連続テレビ小説「マー姉ちゃん」の時代考証を行なう。</p> <p>9月23日(日) 錦糸町駅ビル6階で、墨田・文化講演会「下町の伝統と伝説」(墨田区教育委員会主催)を行なう。</p> <p>「下町こどもの遊び展」(台東区教育委員会／主催・浅草公会堂1階・1月8日(月)～3月31日(土))に資料出品。</p>
1980年	昭和55年	69歳	<p>10月18日(土)、(社)日本建築学会関東支部主催のシンポジウム「東京における「歴史的建築と環境を考えるー上野公園を中心としたケーススタディー」」において、問題提起「下町と上野」を行なう。</p> <p>「台東区郷土資料展 ものと写真で見る 明治の下町展」(浅草公会堂ロビー)に資料出品。</p>
1981年	昭和56年	70歳	<p>5月23日(土)、東京中央Y M C A主催で神田川、日本橋川の歴史遊覧船の歴史解説を行う。</p> <p>『写真にみる昭和浅草傳 浅草の会30周年記念号』(11月25日発行)の編集を行なう。</p>
1984年	昭和59年	73歳	<p>台東区教育委員会より、台東区の教育・文化及び下町風俗資料館建設功績による「感謝状」を授与される。</p>
1986年	昭和61年	75歳	<p>11月13日、午前11時25分、死去する。</p>
不明	不明	－	台東区浅草寺史料編纂調査委員
不明	不明	－	人文社日本地図選集刊行委員会代表